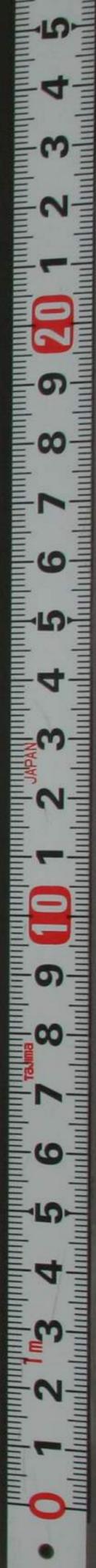




繪本通俗三國志

二編
九

〜 21
221
19



旅
221
19

東志
學

子
茶

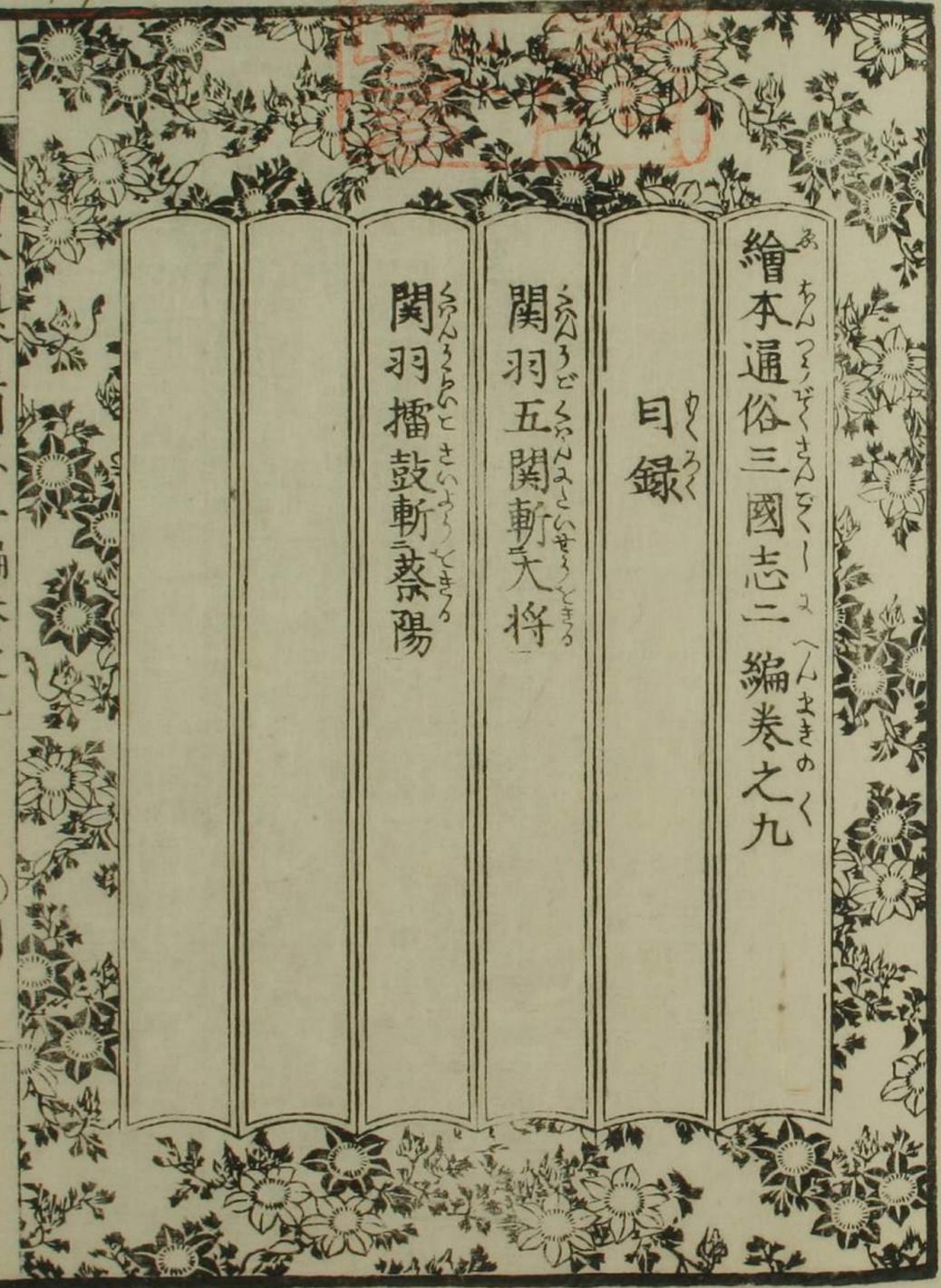
繪本通俗三國志二編卷之九

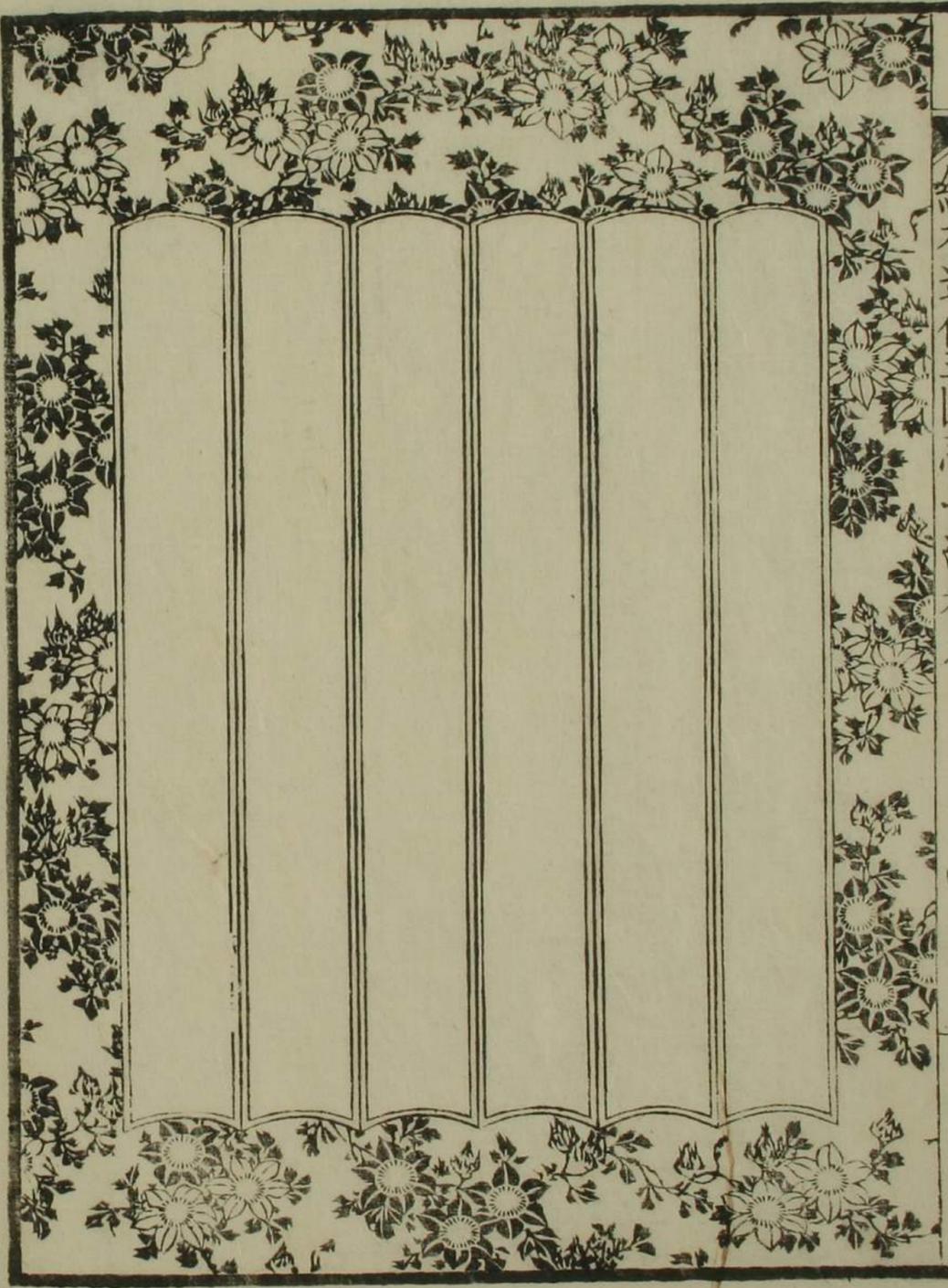
繪本通俗三國志二編卷之九

目錄

關羽五關斬天將

關羽播鼓斬蔡陽





繪本通俗三國志二編卷之九

関羽五関斬大将

去程さつりやうふ関羽くわんうの胡華こくわが家いへを出いで洛陽らくやうとさしとささむむぬぬるる路みちの
 川がは乃すなは関せきありあり東嶺とうりやう関せきと名なくくままをを守まもるるものもの曹操そうそう探たんるる手て下した
 又また孔秀こうしうとのとのみみものもの五ご百ひやく余よ騎きよよと固かちちたりたりままのの元げん来らい三
 乃すなは第一だいいち乃すなは要害やうがいありあり車くるまととかかここすす駐とどめめとと関羽くわんうたた二に騎き上のぼりき
 ころころ孔秀こうしうままををととんとんとととののみみのの多た勢せいととひひののささげげとと出いで向むかひひああままとと
 馬うまよりよりありありぬぬどどとと叱しけけををばば関羽くわんう飛とりりとと禮らいととありあり孔秀こうしう問と
 とと曰いはくく将軍しょうぐんへへ何なに方かたへへとと通とむむかかぞぞ関羽くわんう答こたへへ曰いはくくをを曹丞相そうせいさう
 又また別わかれれととまま河北かほくへへ行いくくとと玄徳げんとくとと尋たづぬぬ孔秀こうしうがが曰いはくく河北かほく乃すなは袁紹えんせう
 曹丞相そうせいさう乃すなは大敵たいてきありあり御違ごちがひ今いま行いくととああららぶぶああららぶぶ曹丞相そうせいさう

乃告文と取来り申す。関羽曰く、事火急に出で告文と志
を来さる。孔秀曰く、所關所乃割符ある。御辺まじく是
處に逗留し申す。都へ入と上せ丞相の命を受て。そのち
通と入。関羽曰く、使乃往還と待べ。いづの日と送ん孔秀
が曰く、一日丞相の命あるを。一日住せん。一年あるを。一年住せん。関
羽曰く、やんやん。你いふれを。まじく侮る孔秀曰く、國乃法度
あるべし。がんを任せど。今乃世龍虎相争と申す。輕しく通
ま。後日乃責と。まじく免せん。関羽曰く、汝も。まじく
通さば。只今大なる災ある。願くは。通し。孔秀曰く、
強と通せん。と。ろふ。あふ。相伴。か。く。ま。と。ぐ。く。留。せ。と。質。と
し。と。只。人。通。し。関。羽。大。怒。り。刀。を。ま。り。と。斬。り。菓。を。孔。秀。

きうの内に入。関門を閉と。鼓と。あ。兵と。集。又。門と。ひ。兒
ふ。鎗と。拵。馬と。と。と。汝と。通。と。言。り。孔。羽
待。兼。た。と。あ。を。ま。と。と。真。地。暗。と。討。と。菓。り。西。馬。わ。ひ
ま。り。と。二。合。と。孔。秀。と。腰。と。二。の。ま。り。と。す。
諸。卒。と。と。と。震。ひ。怕。と。と。走。り。と。関。羽。と。音。と。
の。い。汝。と。逃。と。と。と。孔。秀。と。殺。せ。と。と。と。得。と。
る。の。へ。と。你。と。罪。と。と。と。と。害。と。と。と。と。と。と。と。と。
丞相と。暇と。請。都。と。は。あ。と。来。る。孔。秀。が。言。と。疑。が。ひ。
み。の。と。と。と。殺。ん。と。我。已。と。と。得。と。と。と。誅。と。と。願。く。は。ま。の。由。と。
丞相と。傳。よ。と。い。と。と。関。と。越。と。通。り。と。と。諸。卒。と。と。地。と。様。
伏。と。洛。陽。乃。大。守。韓。福。と。関。羽。が。東。嶺。関。と。越。と。孔。秀。と。斬。と。

會通三國志二編卷之九

る由よし也なり。いといにに諸大將しよたせうとありて、（つ）關羽くわんうをを都みやこを
（い）逃にげ出いて、是こゝ非はあらく東嶺とうりやう關くわんを越こたり。よののの入い来きるるををこの
（か）とと大將たせう孟坦もうたん曰いく。丞相せうしやうの告文こくぶんもあらくく私しにに出い来きるる
（と）と輕かろくく通とする。後日ごじつの責せめ逃にげまがこのをを入い韓福かんぷく曰いく。關
（羽）羽うの勇猛ゆうめうとと敵てきまのををののはは。顏良げんりやう文醜ぶんしうが萬夫ばんぷ不ふ當たうと
（文）文ぶんへへ卒すつにに叶あはりてて討うちたたりり。あのととをを討うちたりりあのが
（む）むの生取せいしゆ心しん孟坦もうたん曰いく。要よう害がい逆さか茂も木きをを引ひきき。彼かれ來き
（と）と待まち受う某なつかの討うちたりり出いてて戦たたかはん。太たい守しゆの山やまの上のうへ陣ちんをを取とり
（雨）雨あめの降ふりやくやく矢やととののあらるる兵へいとと左ひだり右みぎの合あひひ伏ふ置せとと忽たちちち生取せいしゆ都
（送）送おくりり上のせせとと恩賞おんせうのあのをを入い韓福かんぷくの家うちままつつとと千余せんよ
（騎）騎きの勢いきほとと集あつまり突つきき門かどをを固かたましてて待まちるる。關羽くわんう車くるまをを守まもりりとと出い来き

をり。韓福手かんぷくより持もちて馬うまを門前かどまへに立たて来きるるののあら者もの
（ぞ）ぞ名字ななづなととままんととあらるるをを關羽くわんう馬うま上のうへより禮らいととししととししととししとと
（と）とと告文こくぶんありり。關羽くわんうの曰いく。告文こくぶんありり。御ご辺へににあらるる私しにに逃にげ来きるるか
（と）とと古いにしへの都みやこ也なり。關羽くわんうも平地へいぢににたたりり。第一だいいち乃すなはち要よう害がいありり
（と）とと非常ひじょうと正ただしとと告文こくぶんありり。御ご辺へににあらるる私しにに逃にげ来きるるか
（い）いいんん關羽くわんうののとと東嶺とうりやう關くわんの孔秀こうしゆとと任とくずすと
（と）と却かへりり斬きりり。女めも亦また首くびをを失し惜しやくさる。韓福かんぷく文ぶんのの誰たれ
（と）と出いててあのをを擒とらみみととあらるる孟坦もうたん双そう刀たうをを討うちたりり
（と）と蒐くわ戰せんいいぬぬが三合さんごうあらるる馬うまとと走はりりとと關羽くわんう



關羽



孔秀

東嶺關
關羽孔秀

急を追ふ。たゞ一刀を斬り落さず孟坦を獲り計あるは詐て逃
 ぎ関羽に伏し處を告げしむ。四方より取らるる生取と思ひ
 案を相違し。関羽が騎たる赤兎馬の千里乃駿足
 あり。たちうち追付きたり。太守韓福の門乃かこつて馬を
 立し居る。孟坦が討たれんと。きつて馬をさぐらんと。
 的を兵とを射ぬ。その矢関羽が左の臂にあたり。さぐり棄
 ち。大勢の中へ斬り入。韓福の門の前まで追ひ。青竜刀と
 とり。首より肩を切り。斬り落さず敵軍膽をひや。と
 さんぐみ走り。関羽の瘡口より。あぐら血と帛と列きて。とく
 束の人の志を。と恐る。杖中を路をいそげ。沂水関を
 来り。る。その関所を。黄巾乃賊と。後曹操は降り

并及乃下喜といふもの大勢を固たり。関羽が韓福とある
 しく来よしとき。ひそかに計をゆけ。討つと。その辺は深
 乃明帝の建立し。鎮国寺といふ寺あり。を廻廊の陰に
 屈強の兵二百余人を伏置。後孟坦を撃つ。叫び討つ。出
 よと約し。関門をひいて出む。之を関羽其懸
 懸あると喜び。馬より降りて禮をと。下喜する。將軍乃
 威名天下雜ら。あやぎ。今故主の許し。血あふ。下喜
 義を全するあり。深く敬み。関羽これを誠ありと思
 ふ。孔秀韓福を殺した。家よと語る。下喜する。將軍の
 不義乃輩を誅し。曹操あんど怒とあふ。其よろ
 くまの事を。まづく。休息し。鎮国

寺は清どの名に關羽の中より大い喜ぶ寺中乃僧侶二十余人
 鐘とあふしく出ぬ久しうの中は普淨長老とて關羽が同郷
 人あり大喜が出發と殺さんとて計とまりんをばせん關
 羽は問訊しとて曰將軍蒲東といひ幾年ぞ關羽が曰二
 十年はあり長老の曰將軍もきとまりぬふ關羽が曰知
 る長老の曰曰はるを將軍と同郷は生まると將軍の家とる
 けうの河ひの山を隔たり。年久しきをばるとをぬす一ト喜
 ましとてきとて立腹し。長老故郷乃好あぶ事とあはれ洩ん
 とあひひるをばるを關將軍と請と酒をさくせんとするは沙
 門乃身としと。あよとてみどりふ舌と揺さごと叱りぬをば關
 羽はわらさのそふ奴がひて同郷乃人あまばとも昔熟りぬと

ありとて相伴とて方丈へ入るを長老まの茶とて關羽は
 二夫人車の上より願ふまのさくぬ長老とてあはれ夫人は茶と
 すみ手は戒かととりて。關羽はきと目加はるをば關羽との意と悟
 り。後者と呼ぶ青竜刀と側ら置むとれは下喜講堂に請
 ぶ。酒宴とてさくぬとのひるをば關羽に付と四方と伺ふは壁陰
 に入衆と伏たりと人入るをば下喜將軍もきと酒宴は招きぬ
 へ好といふ。却と忍びぬ巧あふんといひは下喜のひるをば
 つまんど將軍と持成る為あり。關羽いぬあやと起る物陰
 とつんるをば斧と持薙刀とひのさげ弓と夫と挾さるるをば
 うりしむ初に疑ふあま。さくんと出發と討たれありとあひ
 聲とあふ。你と善人うとあはれ。却とさくんと害せんとする

會大集三回三二編卷之九

と討りたるに下喜事乃あらむなることと兵ども出よと呼り
 膽太た少年十人をり踊り出るるに關羽青竜刀をまきり
 斬殺さす下喜さまは怖き堂と下り走りりるに關羽さ
 追蒐るるを下喜元來力強きをれを引返して鉄槍を
 投付たり關羽身と避る。青竜刀乃背より打ひたる人
 刀は下喜が肩より腰よりけり。真三の斬倒を敵勢震怖
 き。十方へ落失るるを長老はまはれ禮とほし。長老
 乃扶よあらざるをさあはるる害あらんといふ。懇懃別
 とほし車と守護しと出りるを普淨長老を衣鉢を收拾し
 るるを去る處に住るといふ。他困は行り雲遊せん將軍
 よく身と保ちるる後日又對面せんと。寺と出り去るる

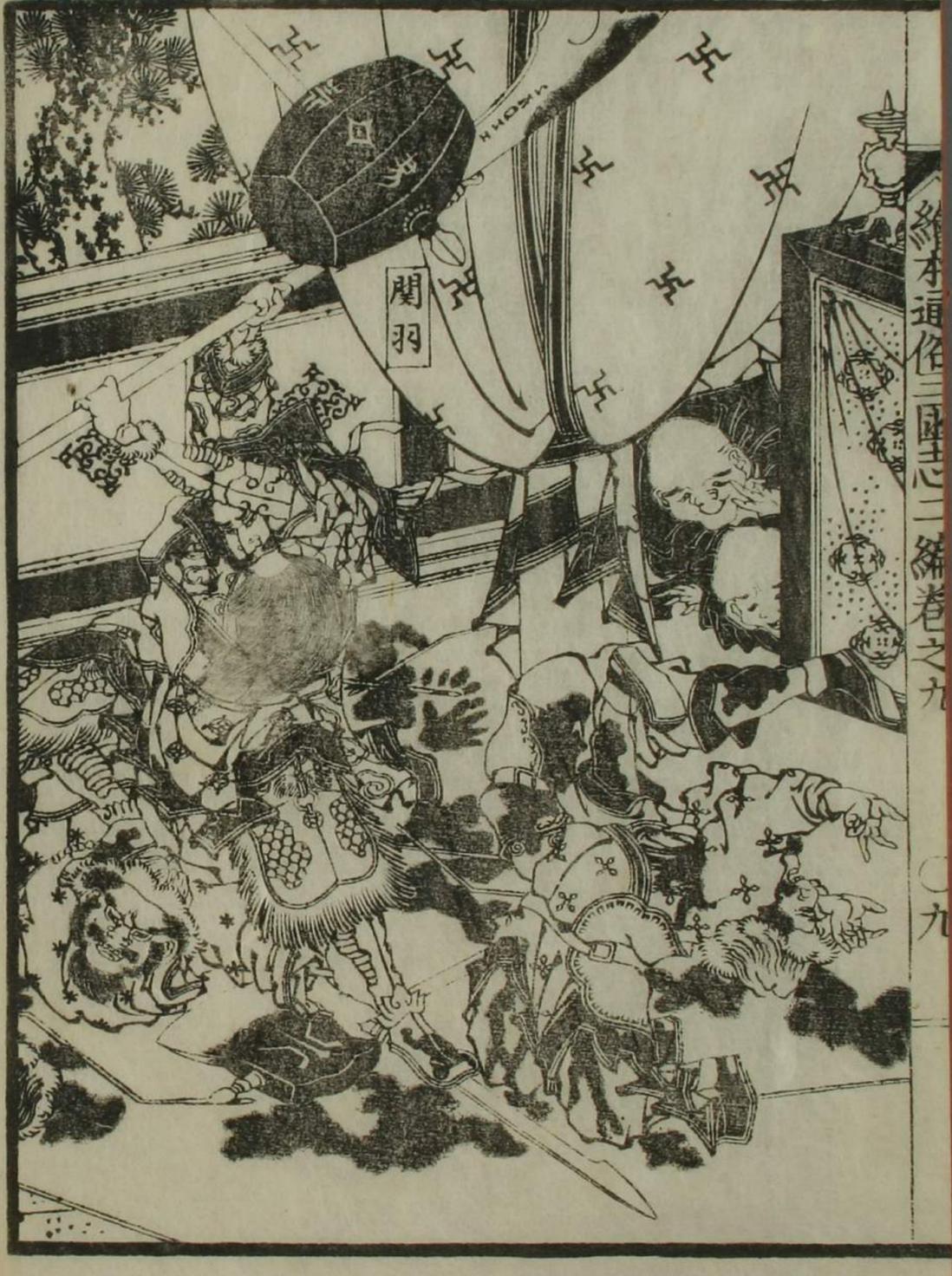
陽乃太守王植を討せ。洛陽乃太守韓福と一類あるに
 勢とあつと相待り。關羽をぞ。沂水關とあるに太守
 下喜と殺し。た。今まの處へ来るといふを。門をひ
 いと出む。え。あ。何へ通りあつと問ふ。關羽答へる。吾
 兄と尋る。河北へ行。王植曰く。將軍へ天下乃義士あり。遠路
 不馳。疲きむ。二人を伴。城中に入。一夜人馬を休め
 夜あけ。打立ぬ。と誠げ。い。い。關羽その懇懃あるに
 さま。疑ふ。城の中に入。客屋をむ。王植酒宴とす。と
 めんと。招き。關羽か。辭し。夫人あるに在。志づ
 も難。あ。あ。い。い。飲食を。客屋を。送り。來る。關羽馬
 秣。甲と解。士卒と休息せ。ゆる。王植は。喜。比。從

事胡班（まへん）とやしと下りて、関羽都（くわんうと）を逃（にげ）出（で）る路（みち）より太守（たうしゆ）を以（もつ）て
 其（その）罪（つみ）を以（もつ）て大（おほ）きあり、彼（かれ）武（ぶ）勇（ゆう）の容易（やすう）なるを以（もつ）て、汝（なんぢ）に
 千（せん）余（よ）騎（き）を率（すく）して、客屋（きやくや）を圍（かこ）み、炬（く）を以（もつ）て、用意（ようい）一（いつ）竟（つひ）る
 柴（しば）を積（つみ）み、四方（しやうほう）より火（ひ）を掛（か）け、外門（がいもん）を燒（や）崩（くづ）せ、二更（にせう）乃（すなは）ち比
 合（あ）圖（ず）を以（もつ）て、兵（へい）を出（い）で、下（げ）知（ち）るを以（もつ）て、胡班（こはん）命（いのち）を受（う）け
 兵（へい）を綱（な）へ、乾（かん）る柴（しば）は焰（えん）硝（せう）とて、おびて、權（ごん）を以（もつ）て集（あつ）め
 用意（ようい）を以（もつ）て、備（そな）へり。たゞ時（とき）刻（こく）を待（まち）り、其（その）時（とき）に、関（かん）羽（う）
 羽（う）が名（な）を以（もつ）て、其（その）時（とき）に、此（この）間（ま）に、伺（うかが）ひ
 入（い）り、客屋（きやくや）へ行（い）き、関（かん）將（しやう）軍（ぐん）へ、何（なん）くも居（い）るを以（もつ）て、問（と）は
 卒（そつ）答（た）へ、廳（てい）上（じやう）に書（か）を以（もつ）て、入（い）り、胡班（こはん）志（し）のびやうを伺（うかが）ひ、
 関羽（かんう）左（さ）の手（て）に、あがた鬚（ひげ）を握（にぎ）り、几（こ）より、燈（あかり）乃（すなは）ち下（くだ）る書（か）

と見居（み）た氣（け）色（しき）尋常（じんじやう）なる人（ひと）は、あがむと驚（おど）死（し）るを以（もつ）て、おおむと感（かん）
 嘆（なげ）し。其（その）時（とき）に、天上（てんじやう）より人（ひと）あり、といひ、其（その）時（とき）に、高聲（かうせい）を以（もつ）て
 関羽（かんう）に、付（つ）き、あがむと、問（と）は、胡班（こはん）内（うち）に、入（い）り、某（なん）の太守（たうしゆ）に、位（ゐ）
 づ、從事（じゆんじ）官（くわん）胡班（こはん）とや、其（その）時（とき）に、其（その）人（ひと）乃（すなは）ち子（こ）胡班（こはん）が、曰（い）は、其（その）人（ひと）は、
 許都（きよと）城外（がい）に、胡華（こけ）といふ人（ひと）の子（こ）、胡班（こはん）が、曰（い）は、其（その）人（ひと）は、
 父（ちち）と知る人（ひと）、其（その）家（いへ）に、宿（しゆく）を假（かり）たり、と、其（その）時（とき）に、從者（じゆんじや）とて、
 胡華（こけ）が、言（こと）傳（た）へり、書（か）を以（もつ）て、見（み）たり、胡班（こはん）は、其（その）時（とき）に、
 其（その）時（とき）に、其（その）人（ひと）乃（すなは）ち父（ちち）の書（か）を以（もつ）て、見（み）たり、其（その）時（とき）に、
 乃（すなは）ち人（ひと）を殺（ころ）さん、其（その）時（とき）に、天（てん）のまの、人（ひと）を扶（たす）け、其（その）時（とき）に、
 其（その）時（とき）に、其（その）人（ひと）乃（すなは）ち近（ちか）く、其（その）時（とき）に、低熱（ていねつ）なる、王植（わうしつ）令（しん）
 宵計（せうけい）を以（もつ）て、其（その）時（とき）に、將軍（しやうぐん）とて、其（その）時（とき）に、早（はや）く、城（じやう）を出（い）で、落（おち）させ、

二更乃比と合圖の四方より火を掛んと其ひそりに関門をひ
りいそ出いせんといひるをべ関羽大に驚馬たるとその山取あへど
二夫人と車に乗門外まで出がる果して火炬を持たせその
どひひりくと来りあはまる胡班ひそる北に関門をひかひそ
送り出し客屋を回り四方より火をうけしをば伏兵賊をほ
くりと討と出さだま入とさざりる人一人山ほ初計を
推し逃たふあふんきうは追蒐よとと飛たてく追蒐る
関羽の胡班を扶けられ二里をり出する火炬とと不はきて
かたりのまき人馬追来り関羽を逃まると聲は言り王植真
先は馬をまきむ関羽も馬ととめさ汝れとよりまきと仇はふ
まゆは焼殺すといまるといひるまき王植まきあへど兵と下

知しととびんか鎗をひ振りて突と蒐る関羽馬とま人を青
龍刀を振あげた合は王植を斬と落し勢をひに乗と蒐
たりしと敵軍膽をひるし八方に散乱せりまきより車と
まめとととと滑及乃堺まで来りりまき太守劉延とと
まき付校十騎と列と城外に出むる関羽馬上は禮とま
太守別来恙あえつといひるを劉延は將軍今何
行むとと関羽曰はる曹丞相と暇を請玄徳乃行末と
尋ねんと劉延曰はる玄徳は河北に居る河北は曹丞相
乃大敵あまの丞相いそる將軍と許るへまき関羽曰はる
はじめ浩事とあまを丞相と約と固とと玄徳乃在焉
とだまき水火とむるんと尋ね去るといひ置り劉延曰



今黄河の渡口は復侯惇が手下の秦琪といふその大勢は要害と守はるゝあはれ將軍と通さぬ。関羽が曰く太守は渡る舟を借る人劉延が曰く舟をあはれまじき。今日將軍を借る後日罪いづく。逃ることを得ん。関羽が曰くまじき。顔良文醜を討つ。太守が為にあはれたを救ひ。今日まじき。一艘の舟を借るぬ。劉延が曰く舟を借るとまじき。復侯惇もまじき。あはれまじき。罪まじき。関羽が曰くまじき。劉延は無用の人ありとあはれまじき。車を推せ。秦琪が陣へあはれ。秦琪まじき。まじき。兵を率へて出迎きたまはる。まじき。名まじき。まじき。まじき。関羽が曰くまじき。まじき。秦琪まじき。侯関羽まじき。秦琪まじき。

曰く何へ行む。関羽が曰く河北は行と。玄德と尋ねんと。願くは渡る舟を借る。秦琪が曰く曹丞相の命あり。関羽が曰く曹操とあはれ。まじき。漢朝の臣あり。まじき。彼がト知と受ん。秦琪が曰くまじき。復侯惇の命と受と。まじき。渡と守る。汝却あはれ。飛と行まじき。曹丞相は問と。まじき。通まじき。関羽が曰く汝まじき。路まじき。まじき。遮まじき。せまじき。斬まじき。首と失ん。為る。秦琪あはれ。雨なまじき。下將と斬たり。も。まじき。顔良文醜は優まじき。秦琪大に怒る。手并る。あはれ。まじき。関羽馬まじき。

會天員全三國志

青竜刀とあぐるかすねむ。秦琪が首の地は洛たり。関羽
大音あげく。まきよむふも。いしづく是乃て。早く舟を
出しとるまきと渡せといひりまき。敗軍あへて逃ちたきり
舟と出しり。関羽北乃岸はあかりと。まきより袁紹の領地
あまこいよく車とせりやまき。北と望んで進發せ

関羽播鼓斬蔡陽

関羽都と出さより五ヶ所乃関を越六人乃大将を斬る
し。まては黄河乃北は渡りまき。乃中をまき。安くまき
路より大将と討たり。ハコとと得ざるありと。思ふと
操まきときり。あまはまきと。因とまきぬ。ありと思ふと
喋息して止る。車は流りまき。忽ち騎馬乃容鞭と打り。池

来り。雲長志づき。苗とと呼り。関羽馬をひく。まきと
ち孫乾を近くより問。曰く汝南は別まきより。一向消息
ときり。いえと仕ひ。孫乾より。汝南乃劉辟龔都某
を河北は使せし。袁紹と好むと。まきと。玄徳と汝南へ請。共
よ力とあせ。曹操と伐んと計。案は相違。袁紹の手下
乃大将たが。姪とあをひ田豊の獄は囚を沮授へ退せけり。
審配郭图志と得。権とのいざらよと。まきと。袁紹のよ
り。疑乃ん。あ人あま。萬事決まると。あ。まきと。まきと。
將軍も軽しく行む。い。ある。変と起。まきと。まきと。まきと。
某は。劉皇叔と身と脱。乃計策と定め。三日己前
は皇叔と汝南へ来る。將軍まの。まきと。まきと。まきと。輕

袁紹が處へ行む。馮乃中は落く。害せらるるをみんじと
 恐む。根と日はほいどまきまきと来き。早く汝南は来
 と對面し。ゆとひひまき。関羽うなり。喜び。二夫人は右の
 あゆむきと結る。二夫人孫乾とゆし。玄徳乃事と問きけ
 せ。孫乾はぬびる。途及没落乃後艱難と志の。袁紹が
 兩度まで斬んとせしとと結る。よま漢とぞあがし。る関羽
 まきより路とたぐ。汝南と望ん。とさむむる。後より馬烟と
 あげと来る。ものあり。孫乾は車と守らせ。このけ馬と
 うしとそれを。復侯惇が執る。元来復侯惇の曹操命と
 受。袁紹が摩乃為は官渡は陣と取。居たり。るが関羽は
 そろよ都と逃。路と守。り。大将と斬。あぬ。さ。入。り。手

下乃秦琪と黄河乃渡。よ。殺せりと告る。と交。る。の中。を
 怒り。三百余騎よ。追。蒐。来。る。る。う。已。よ。る。ち。う。く。あ。り。を
 関羽馬と住。ち。大音。あ。げ。と。問。き。曰。ひ。を。と。追。い。う。あ。る。人。ど
 かの。ゆ。と。曹。丞。相。乃。本。意。は。昔。日。と。な。る。を。復。侯。惇。の。は。汝。丞
 相。乃。告。文。と。い。ふ。私。は。出。来。り。と。途。よ。く。又。は。大。將。と。ま。る
 せり。の。き。あ。ん。ど。生。取。ざ。ら。べ。き。早。く。縛。と。受。よ。関。羽。の。い
 り。昔。日。い。ぬ。と。漢。は。降。ら。ざ。る。と。死。ん。と。人。と。誅。戮。さ。る。と。ん。乃
 ま。う。行。ま。る。と。約。せり。ゆ。人。は。途。よ。く。を。と。避。ら。ん。と。せ。し。と。の
 一。殺。し。来。ま。り。你。は。あ。ふ。と。亦。首。と。失。つ。ん。為。ら。ま。る。る。く。小
 去。ら。う。と。今。中。と。と。う。け。復。侯。惇。き。ま。ゆ。人。を。と。秦。琪。が。雙。言
 と。報。せ。ん。と。と。鎗。と。拈。り。と。突。と。蒐。る。不。ふ。早。馬。一。騎。馳。き。たり

関將軍と戦ふとあるを呼ぶ。夏侯惇あつてのどと問
 ば馬の上より告文と取出しそりる。曹丞相も関將軍
 の忠義とあつても。関所よとさえだり住んとするそのわら
 ば無事よひつと通させよと。告文をとりぬり夏侯惇
 関羽路まきとす大將と殺せり丞相まきとまりぬる
 合と曰まきとまりぬる夏侯惇曰まきと早生取と都
 送り丞相命を任せんとす馬とまきと。関羽二十余合と
 戦ふと又早馬打と。二將軍を戦ひと休よと呼り
 来るとぬり夏侯惇曰雨はあつる使と答と曰曹
 丞相路まき関將軍とさえだるものあつる関をひつとす
 よと告文と出ぬり夏侯惇曰丞相関羽と途まき

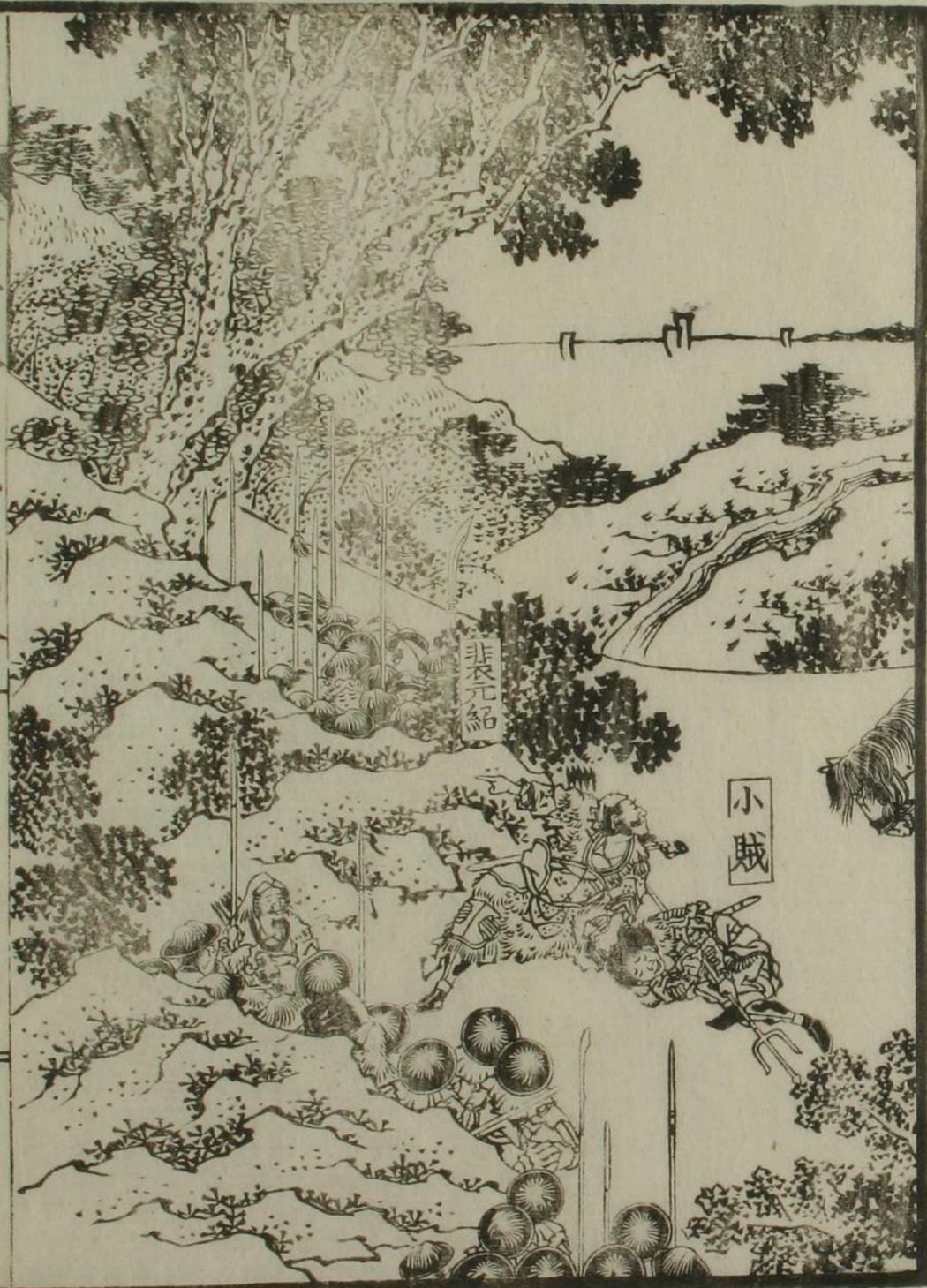
関守と殺つたことまりぬる答と曰そのものぬと都へま
 き夏侯惇曰まきとぬるもの者と取逃まきとと鎗と
 ひゆると菟まき関羽も刀とまきと。又十合をくり戦ふと
 忽ち早馬来りと。兩將戦ひと休よと呼り左右へひと
 分たりと夏侯惇問と曰丞相関羽と生捉まきの使
 と答と曰まきと道中と関所を割符とぬるまきと住
 んとぬるものあつた無事と通させよと。追く三度まき告
 文と賜と早馬と立ちぬり。いままきへ来らぬる夏侯惇
 曰まきとぬるものあつた人を殺せぬとるまきと前を
 生捉まきと。兵と下知と四方より取圍むるまきと
 大音あげと元讓雲長まきと戦ひと休よと呼り来ると

あり。諸人まきとんる張遼あり。戦ひて止く相待む。わざ
 なく張遼きたり。馬上より下りて。関羽を東嶺関より太守
 孔秀と殺したる由都へきまへ。ゆかろりて。あが路より害
 なく。あつらふ。無事を通させよと。某と来らし。あつ
 たり。夏侯惇が曰。秦琪は猿臂將軍。蔡陽の甥あり。昔
 日蔡陽と丞相はまてり。ゆへ甥の秦琪とて。手下に属
 置り。関羽まで。秦琪と。黄河を渡すと殺せらる。さきい
 黙止へき。張遼が曰。蔡陽のあつ。此事より。ゆへ
 まで。丞相寛洪なるゆへ。関羽とゆふ。その忠義を
 完くせし。ゆへ將軍あつ。あつ。昔あつ。ゆへ
 夏侯惇許諾して。軍を収む。張遼又関羽より。御邊

いゆとせし。行め。関羽が玄德。今表紹が居む。い
 あり。あつ。天と。張遼が曰。在處に知
 む。再び都へ回り。丞相は。関羽が曰。度
 出。何んぞ又行。御邊都へ回り。丞相は。謝
 たり。相別。張遼の都へ上。夏侯惇は。官渡
 と守。関羽馬を早。車は。追付。右の事と物。誤り
 して。日と。傾。路。宿。借。日。大雨
 降。片時。途。車。守護。進。家
 を。雨。湿。乾。岡。家
 宿。借。家主。出。名字。問。郭
 関羽は。来意。家。喜。某の。郭

常とPとをあるあり。久しくある世と遁を。將軍乃威名と交
 今幸ひは見ゆると得たりと。羊と宰と酒とまぐち。二夫人を
 後堂へ請どく持成るを。関羽孫乾一處にわのまうと。濕る
 它のと火は燃り馬は秣を創せらる。さるは黄昏はらうて。入年
 若く大將從者五六人と引と。あつとく来りらる。家主乃郭
 常より子と来りら。関將軍を見へなるとい。関羽問と曰
 まきいさる人ぞ君と曰まきい老父が子とくひ関羽との子と
 ひる。今いの方より回りらる。と問は獵は出と回り来り
 と答ふ父乃郭常とたり。涙とあぐとやらる。其の先祖より
 儒道とあるととる家あると。天の乱とさけと。その田
 耕と年已老と只の一子ありと。Pとせと。惡道とあると。儒

業と學と明暮た。獵漁釣と事と。親乃諫とる。ま
 ち。まき家乃不幸あり。関羽ヤらる。今天下乱と合戦とま
 び弓馬と學と武藝と嗜とあり。後うあるは大功と
 まま。郭常と曰く武藝と嗜むは好とい。まら子は放蕩と
 して用る足と。関羽嘆息と。熟りと深更とい。臥房と
 入とひと。孫乾と。父のかくらと。賢人あると。子とて
 まら。不肖あり。まは天命乃ひとし。るる。孫乾ヤらる。い
 ひ。瞽盲の愚頑と。舜と。た聖人と。生り。例まきと。は
 めら。と。寐入た。と。あひ。な。俄と。屋乃後と
 入。さ。馬嘶ひ。鼻の沸と。ま。ら。関羽驚ひ。起
 め。と。行。郭常と子。地上と倒とる。



士卒あつたり。さしぐは打擲。まいつらある。ゆきと問。答へて。此人の。赤免馬。盗と。打乗。逃ん。め。鞍。置んとしける。が。此馬。踏倒。声。とは。某。驚。馳来。り。同類。四。五人物。盗。逃んと。孫乾。を。まひ。と。救。せ。関羽。曰。千里。の。馬。盗。去。んと。巧。家。主。郭常。を。不肖。子。悪事。仕出。罪。誠。逃。老妻。は。此子。を。愛。殺。願。將軍。の。怒。

悲。命。扶。関羽。を。命。夜。待。打。郭常。夫婦。地。再。拜。不肖。子。悪事。虎威。冒。幸。活命。の。恩。関羽。の。志。口。今。出。郭常。夜。四更。五。六。人。悪黨。引。何。出。去。前生。宿業。関羽。長。家。出。二。三。里。人。里。遠。山路。騎馬。大將。二。百。余。人。士卒。路。先。入。身。同。黄。巾。の。頭。郭常。

う子あり乃きい。扱ひ欲心あをやまげ。前よりまのまき又より通と
 待居たるあり。蹴ちしとまことと。馬を打てまてこをい。
 真先より立たる大將大音あげとやうい。まの張角が支黨
 大方裴元紹といふあり。爾を無事にとあえと思
 へまろすく赤兎馬をわとまて。あ異儀におよび目よとの
 せんと待つけたり。関羽まをときひと打笑ひ。欲心熾盛乃山賊
 どもむし。張角の徒よと。かをまの関羽とまて。取ぬとの
 とまるとし。却て爾が首と夫あふ。裴元紹又やうい。まを
 顔あきしと。髯あがれ男を関羽といりときま。が卒よ目
 よいんを再い。おちちの人もある。関羽刀をよみ。左の手よ
 髯を握りて。まをんよと叫り。なるを裴元紹とまて。驚馬を馬よ

下飛と下。郭常の子を髯とりと引伏。再拜して地上に跪
 け。関羽いあるゆとと問ふ。答と。某の天公將軍張
 角の徒ひし。裴元紹といふあり。黄巾の漢黨なるびと
 のちへ身乃置處す。山林のあり。諸方乃あふまて。の結ふ
 と山賊の業と。今朝まのの来りて。一人乃旅客赤兎馬と
 天下無双の名馬を乗る。あふまて。通るべし。まの奪ひと
 といひ。ゆへ。わくろどく。待掛たり。量ざる。関將軍よりそれ
 のよまの者。生取と斬るといひ。まを。関羽。つる。まを。おえ
 だ郭常が志し。とあふまて。その子と殺さ。まのびと。馬乃
 前より繩と。ぬゆるさせられ。頭をわへ。鼠乃窟が。とく。去
 る。関羽又裴元紹を問ふ。曰。御辺あよと。まを。名とまり

會入通谷三回三十一編

九と答ふ曰まをより二千里と隔る卧牛山といふ山ありその
 山は周倉と関西より出たふあり板助虬長容白をま
 はと雄壮よりと。左右の臂より千金とあぐ。とち張寶志
 たがの。黄巾の黨たりし。近ぶる山林は身を寓る常は將
 軍の威名と志たひ時とまの。拜し見へんと。和が。まま
 中ときまの。関羽長葉し。山林の中。忠
 義の入りあり。賊とあま。御辺今より邪を去り正きま。人
 裴元紹拜謝し。をへ。関羽とて。打立んと。まは。あ
 馬塵とあげと来るとあり。裴元紹と望んで。定めとされ
 周倉とひんと。いひ。その勢わど。馳ち。と。馬
 より一人乃大將路の。拜伏を。関羽ま。扶け起し

御辺い。まを。か。と。問ふ。答ふ。某は関
 西の周倉と。昔日張寶が手は。戰場
 と。常く身は。盗賊
 におち入。將軍と。恨とも。今日幸
 ひ。天の賜。拜と。得。孫の將軍
 某と。馬前。一小卒と。たとい死を
 とも。関羽曰。御辺。と。ま
 ら。相。勢。周倉曰。と。関將軍は。後
 と。手勢。汝。関將軍は。後
 べ。と。答。関羽事。仔細と。二
 夫人。甘夫人の。曰。將軍都。出。より。千里と

志のいご多く乃艱難之經歷。いごのいも人乃助を受む。され
 又廖化が送らんといひける。將軍ささく許む。今此是
 乃とくある。益をての頼あべ。人乃談論を扼ん。まの曹
 操がきこるん恥し。まの女乃身あり。將軍よろしく料
 め。関羽嘆服し。まのぞれ。周倉はむのち。先
 御辺に阻ぶ。まのむとく。二夫人まの喜ぶ。先
 山中に回り。志がく棲遲。まの重祢を招く。待ひ。周倉
 頓首し。まの。某の言は足ざる。匹夫あるが不幸。身
 盜賊のまの。入は祢を非とあふ。乃のあり。今將軍を見
 へ。雲といひ。天日とん。將軍まの。外に求む。まの。手
 下乃勢乃相從ん。と。思ひ。外に求む。まの。手
 下乃勢乃相從ん。と。思ひ。外に求む。まの。手

いご。志がく。まの。入遺。雷め。裴元紹。まの。置某。只
 一人歩行し。將軍を從ひ。万里と辭を入る。関羽との
 志。乃切あると感と。二夫人。右と訣む。甘夫人の曰。彼
 一人。まの。伴ひ。まの。妨げ。関羽。乃告。一
 人。まの。伴ひ。裴元紹。周倉。行。某
 も相從ん。周倉。曰。御辺。今。手勢。と。散。上
 志。まの。士卒。と。あ。まの。領。関將軍
 後。行。乃。馳。回。り。御。邊。に。まの。裴元紹。を。心
 得。兵。を。引。具。快。と。去。る。関羽。孫乾。車。を。守。り。周
 倉。を。伴。ひ。途。を。まの。日。を。經。て。汝南。乃。界。を。まの。か。まの
 山。乃。上。古。き。城。乃。ある。と。望。み。ん。處。乃。人。まの。者。乃。龍。乃。ふ



張飛

張飛

関羽の戦と需

會天軍全三國志二編卷之九

〇三三



関羽

會天軍全三國志二編卷之九

〇三三

馬に打乗千余騎を率し北門より出たるを、関羽
はさることんぞ喜ば青龍刀と周倉を持せと相近く張
飛眼をいふと、八と睨み虎鬚倒るるを、たれと叫ぶ聲
霹靂のどぞ矛をひねりて突く、蒐りては関羽のひしと
大ふあそをきまじらぬ身と、避くやんやん。昔日乃誓ふるは、
やまをきあかぬ張飛怒りてやんやん。再へ不義乃軍あるの
面目ありと我のありとまじらぬ。関羽白く、まじらぬ不義
ある張飛白く、再とぞ曹操の事を壽亭侯に封せらるる
富貴をいさわりと義とわきま。今又あま来りて、まじらぬ欺
とまじらぬ。勝負と決して、再と殺さば、まじらぬ。活
関羽白く、御辺定めと事仔細とまじらぬ。まじらぬ。

「言う」と。二夫人を見へは、まじらぬ。聞甘夫人まじらぬと。自ら
兼とわげと張將軍あまじらぬ。是乃どくあるとやんやん。今不義乃
を張飛白く、夫人まじらぬ。敵馬ろくせぬ。今不義乃
賊と誅して、城中へ入らまじらぬ。甘夫人の曰く、関將軍の行
末とまじらぬ。まじらぬ。曹操の降
まじらぬ。皇叔乃河北に居りて、まじらぬ。千里の艱
苦と経て、まじらぬ。送りとまじらぬ。事とまじらぬ。定め
まじらぬ。誤りて、まじらぬ。張飛白く、大丈夫乃士おまじらぬ。君
仕る乃禮あまじらぬ。夫人うあまじらぬ。賊まじらぬ。甘夫
人の曰く、下邳城まじらぬ。敵大勢まじらぬ。まじらぬ。事
まじらぬ。張飛白く、大敵まじらぬ。事

人^んがた^とひ^し死^ししと^て敵^の野^外に^は暴^をと^もあ^る命^をと^ひさ^がり^と
 耻^辱を^受へ^りや^とと^ぞ曹^操を^降り^とあ^る乃^は面^目あり^とあ^る
 来^きま^る関^羽が^白く^事の^是非^を辨^へむ^とあ^ると^ぞ右^の際^に
 し^たぞ^孫乾^は志^をた^らず^と謙^をと^り関^羽實^に曹^操を^降り^とあ^る
 よ^く是^非を^きま^定め^りと^いひ^にま^る張^飛い^ふ怒^を曰^く汝^は
 お^もた^り舌^をと^揺る^とあ^る曹^操と^計を^約し^てま^ると^出發^す
 と^生捕^へん^とあ^る関^羽が^白く^曰く^まる^は御^邊に^生捕^へん^とあ^る
 ら^ばあ^るま^ると^兵を^引て^来る^人と^まる^を見^ゆ車^を推^し卒^の外^に
 二^兵の^入ら^ば張^飛あ^ると^安ら^ずと^る馬^烟を^あげ^と大^勢
 寄^来り^と六^丈の^長馬^をあ^きい^ふと^まる^を生^捕の^計あ^りと
 い^ふと^矛を^ひね^りと^突と^蒐る^関羽^身を^避け^後を^入る^と

誰^もも^ある^を旗^三流^さあ^げと^彪乃^は軍^馬飛^がと^くと^池
 来^りに^まる^張飛^はひ^ろの^とや^りの^御邊^に疑^ひあ^らず^と
 今^日乃^は前^に追^手乃^は大^將を^討と^りと^詐り^まる^を明^か
 さま^に張^飛が^白く^まる^三通^乃鼓^を打^あひ^と追^手の^大將^を
 大^將を^斬殺^せと^遲と^いふ^とま^ると^ある^乃曹^操が^大將^乃後^に
 侍^居ら^る追^手の^勢を^とり^と追^付曹^操が^大將^乃後^に
 齊^將軍^蔡陽^乃と^横へ^と馬^を出^しと^関羽^問て^曰く^来者^乃
 何^人ぞ^答て^曰く^是蔡^陽乃^と曹^操乃^と甥^乃秦^琪乃^と殺^す
 せ^りと^受相^乃命^をと^受ま^ると^来と^汝を^擒め^と却^て壽^亭
 侯^乃封^せと^まる^とあ^ると^云い^果さ^ると^張飛^鼓を^鳴ら^せ
 関^羽馬^を飛^しと^真地^暗に^討と^蒐た^り一^合乃^は蔡^陽乃^首地^乃

落一通の鼓ごよいまご了ごまば張飛まよこんの中
 大よ喜ぶ関羽の勢よ乗る逃る敵と追蒐旗持と生取
 回りと蔡陽が追蒐たる仔細と問ふ答と曰く関將軍の都
 と出むひとれ蔡陽まやう追討せんとして望むまをどを
 曹丞相許しむひまらるるも甥の秦琪が黄河の岸よそ
 討まよときいよく怒と含む折節曹丞相汝南の劉辟
 と退治せよと兵と授けぬり蔡陽天乃與と喜ぶ汝南
 へ向むと將軍と追蒐たりと張飛もまをまをすこ
 怒とまひち又関羽が士卒とゆくと都よその始終と問ふ有
 の終よ告るま初め終らざるまと城中へま孫を入る。

繪本通俗三國志二編卷之九終

